

岩手医大が歯学部改革

米ハーバード大と提携

カリキュラム導入

岩手医大(小川彰学長)は米国ハーバード大と提携し、歯学部改革に乗り出した。岩手医大出身のハーバード大歯学部准教授を学長顧問に迎え、カリキュラムを全面的に見直すなど、世界トップレベルの同大の教育システムを国内の大学歯学部で初めて導入。高齢化の進展で口腔ケアの重要性が増す中、歯科教育・臨床のリーダーとなる人材育成を目指す。

永井氏(釜石出身、)学長顧問に

同大の主な提携内容▽同大教授陣を招いては▽岩手医大がハーバード大の講義▽同大が行う臨床大の歯科医療成力床実習への学生派遣▽リキュラムを導入するなど。

ハーバード大 米アマチュアセックケンブリッジに本部を置く1636年創立の私立総合大学。英教育専門誌による世界大学ランキングで2010年まで7年連続1位を維持するなど、学問的水準の高い名門として知られる。米大統領やノーベ

ル賞受賞者ら、国際的に活躍する各界のリーダーも数多く輩出している。岩手医大歯学部は116年生各約10人ずつと臨床研修医を含むグループを複数つくり、担当教員各2人を配属。専用の部屋を設け、上級生による指導や教員の即時対応を通じ、学習や進路など学生の悩みを具体的な課題解決を図っている。

昨秋から、ハーバード大が効果を挙げている学年統制の「ソサエティシステム」を採用。116年の各学年10人程度を一つのグループとし、指導教員の下で上級生が下級生を指導するなど、歯学部全体の底上げに着手した。

2012年度からは高度先進歯科医療を学ぶ機会を設けるほか、診療参加型臨床教育の充実、3次元撮像による歯型どり、インプラント治療などを柱に掲げる。

岩手医大は11年4月、卒業生でハーバード大歯学部の永井成英

准教授(釜石出身)を身、ポストン在任)を非常勤の学長顧問に迎

え、同7月に改革プロジェクト実行委を組織。同大のR・ブルース・ドノフ歯学部長と小川学長が同12月15日、プロジェクトに関する覚書を締結した。

改革プロジェクトで指導的役割を担う永井学長顧問は「大学の職務である高度最新医療と学生教育をさらに充実させたい」と意欲。

25日に岩手医大歯学部の公開シンポジウムで「歯学部改革・2012年」と題し、特別講演する。

小川学長は「矢巾キャンパスを開設し、付属病棟の移転整備などが進む中、本学出身者の協力を得て歴史と伝統ある歯学部を再構築化し、国民・県民のためになる歯科医療に取り組み」と語る。